

九州中部の長期テクトニクス再考

大橋 聖和（産業技術総合研究所）

- ポイント
- 九州中部をとりまく長期（過去 500 万年）のテクトニクスは、様々な地質学的要素が影響し、日本列島の中でもとりわけ複雑。
 - 約 300 万年前以降の九州中部の応力場は、中央構造線に関連した横ずれ応力が支配的であることを示す。
 - 長期のテクトニクスや大規模火山活動で生じた複雑な地質構造が、2016 年熊本地震の震源過程に影響を及ぼしている可能性。

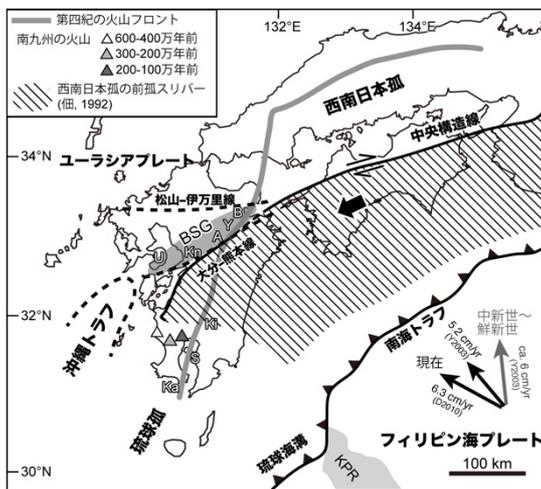


図 1. 九州を含む西南日本弧の主要なテクトニック・セッティング。
 A：阿蘇山，B：別府，Ka：開聞岳，
 Ki：霧島，Kn：金峰山，S：桜島，U：
 雲仙，Y：湯布院，BSG：別府-島原地
 溝，KPR：九州-パラオ海嶺

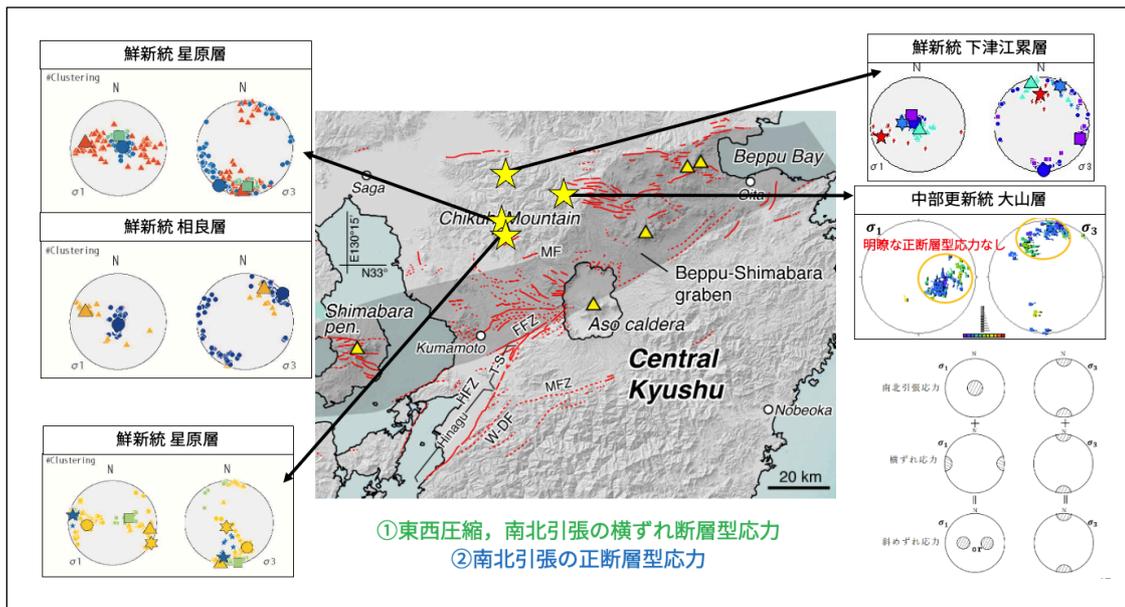


図 2. 九州中部の約 300 万年前以降の地層に発達する小断層から求めた応力場。
 東西圧縮の横ずれ断層型応力と南北引張の正断層型応力が共存する。